

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1270101619		
法人名	有限会社 ハーモニー		
事業所名	グループホームハーモニーそが		
所在地	千葉市中央区蘇我4-22-11		
自己評価作成日	令和3年1月15日	評価結果市町村受理日	令和3年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	令和3年2月10日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一人一人の生活者として尊重し、自由に生活して頂けるように、安全確保に気を配りながら支援してまいります。</li> <li>○ 環境面に於いては庭の畑で菜園を行っています。</li> <li>○ 地域との交流を積極的に行っており、現在は新型コロナウイルス感染症にて中止していますが、イキイキ体操に関しては、今後も状況が許されるようになり次第開催してまいります。</li> </ul>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>JR蘇我駅から車で5分ほど、閑静な新興住宅街に、グループホーム専用にて建てられた平屋建てのホームです。内部はゆったりとした造りで天窓からは自然の光が射しこみ、明るく開放感があります。この広いホールを月2回地域住民に開放し、「イキイキ体操」を開催し地域交流を積極的に行っています。(コロナ禍の現在は、ボランティアの受け入れを含め中止しています。)</p> <p>ベテランの職員も多く、和気藹々とした雰囲気の中で、一人週3回の入浴を行うなど、きめ細かな支援と質の高い介護を実践しています。今回実施した家族アンケートでも、コロナ禍で面会が難しい中、利用者様の様子を、電話やビデオ通話、行事の写真送付などで細かに伝え、家族の不安や心配を和らげられるホームの対応などに感謝の言葉が多くあり、家族がホームを信頼している様子がうかがえます。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議、申し送り、日々の会話等で理念に基づいた入居者支援を行えるように、職員に指導を行っています。	地域密着型のサービスの意義を踏まえた理念を、フロアーに掲示し、申し送り時や全体会議で唱和・確認共有し日頃のケアの中で実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに出来る限り参加し、ホームのイベントには、町会長始め、民生委員・近隣の住民に声をかけ参加して頂いています。	町内会の行事(一斉清掃や河川の掃除)に参加、ボランティア(踊り・マジック・歌など)の受け入れ、ホームのイベントに地域の人たちの参加等地域交流を積極的に進めていましたが、コロナ禍の現在は自粛しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に包括支援センター・町会の役員及び民生委員に参加して頂き、入居者の生活ぶりをお伝えし認知症について理解、支援方法をお伝えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター・町会の役員・民生委員・家族に参加して頂き、サービスの実際、評価の報告をし、其々より有用情報や意見頂きサービス向上に努めています。	会議は、地域包括支援センター、町内会役員、民生委員、家族代表(5名)職員等で年4回開催し、参加者からの意見や、助言をホームのサービス向上に活かしています。ただし、11月からは書面で開催し、議事録は参加者メンバーに配布し意見を聞いています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	インターネットで送信されてくる担当部署よりの情報を確認しています。報告を求められる事に対しては滞ることなく報告をしています。不明な点があれば相談を行っています。	市の担当部署とは、メールなどで常に連絡を取り合い相談をしています。運営推進会議に地域包括支援センターの出席があり、アドバイスを貰うなど良好な協力関係を継続しています。介護相談員も2名来ていましたが、今は自粛しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを職員は研修等で正しく理解しています。入居者の自由意志を尊重し、自由に行動できるように玄関、居室等の施錠はしていません。	身体拘束廃止委員会は、指針に従って年4回開催し、現状を把握し周知徹底を図っています。社外の研修も積極的に参加しています。日中玄関は施錠せず、帰宅願望の利用者には一緒に外に出て散歩しながら気分転換を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が高齢者虐待防止関連法について研修を受け、入居者を一人の人として関わる事ができ、虐待が見過ごされていないか常に注意をはらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、制度の理解はしています。入居者に成年後見人をつけている方もいますので、活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項については十分に説明をし、納得して頂いております。解約又は、改正等の際も十分に理解、納得をして頂き不明な点については、その都度お答えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナ感染症にて運営推進会議の開催が出来ない状態でしたので、書面にて行いました。意見聴取も行い、事業所の運営に反映しています。	家族については、来訪時(現在は中止)、運営推進会議、行事参加、電話などで意見・要望を聴いて運営に反映させています。外部評価の際に実施する家族アンケートも参考にしています。利用者については、毎月2名の介護相談員が訪れ利用者から話を聴いています。(現在は自粛しています。)	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議で職員は、自由に意見を述べ、ホーム長・管理者はその意見を参考に運営に反映しています。	管理者は、日頃の対応や月1回の全体会議等で意見や要望を聴いて運営に反映させています。またホーム長が職員との面談を行っています。イベントの飾りつけやドライブでの外出等は職員の提案により実行しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職業能力評価制度を導入し、客観的に評価するよう努めております。キャリアコンサルタント制度を導入し、個々に面接を行い向上の啓発を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の外部研修は、出勤扱いとし、積極的に参加させています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修は、同業者職員との交流の機会ともなりますので、積極的に職員を参加させています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際し、家族、担当マネージャー等より本人の生活歴、現在の生活状況を聞き取り本人・家族の希望、思いを出来るだけ把握し安心できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の生活状況、要望等を聞き取りその思いを把握し、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が今必要とされていることを、優先的に対応し、他のサービスについては、相談しながら進めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、日常業務を本人と一緒に生活している者同士と考えて出来る事を一緒に行い、共に過ごし支え合う関係でいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族と相談しながら、本人の居心地の良い生活に向けて共に支え合う立場として良い関係作りを築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の親しくしていたご近所の方、馴染みの方の面会もあります。懐かしい場所へのドライブも行って昔話しに花が咲いている事もあります。	現在は面会には中止していますが、家族に写真や動画を送るなどして利用者の様子を伝えていきます。また感染対策を十分行って車でなじみの場所に行く事もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性を大切に、職員が中に立ち入居者同志の会話が弾み楽しく過ごせることができるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療的ニーズが高まり、入院された方について、家族を通じて様子を伺ったり面会に行ったりして関係性を維持し、経過の把握に努め相談にいつでも応じられるような体制を取っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い、希望、意向に耳を傾け、把握に努めています。困難な時は、相談しながら実現出来る場所を見つけています。	利用者のしぐさや表情を観察して意向の把握に努めています。畑で収穫したナスやキュウリを利用者とともにぬか漬けにして食べるなど、普段の会話から利用者の意向を拾って支援に生かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人1人のこれまでの生活歴の聞き取りをして把握する様になっています。わからない点は、本人・家族より聞き取りを重ねて取っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、入居者個々の状態把握をしています。少しの変化があれば大事に至る前に何等かの処置を行い大事にいたら無いように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全体会議を月1回開催し、入居者について方向性、現状の状態等意見を出し合いそれを介護計画書に生かし、定期的修正し実現可能な計画書作りを行っています。	入居前に本人・家族・ケアマネージャー・医療機関から必要な情報を得て介護計画を作成しています。3か月ごとにモニタリングを行い、変化時と半年ごとに計画の見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケア記録に残し、朝夕の申し送り等利用し、問題点、気づき、工夫は職員間で情報共有しながら行っています。実践や介護計画見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況変化に対して柔軟な姿勢での取り組みを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、活用できるところは使わせて頂き安全で豊かな暮らしができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診月2回定期的に行っています。以前のかかりつけ医との関係も継続できるように受診の同行を行ったり、連携をとっています。	入居時本人・家族の意向により、かかりつけ医を決めています。月2回の訪問診療医と週1回の訪問看護により健康を管理しています。急変時には日中と夜間の対応マニュアルに従って医療と連携をとり、迅速に対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医療機関の看護師、訪問看護週1回来られ体調異変に早期に気づき、適切な医療が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族と共に職員が付添い、本人の情報を医師に伝え初期診断に役立てて頂いています。カンファレンスには、同席し状態把握し関係性を継続していき、時々面会も行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	年1回重度化・終末期に関しての話し合いを往診医を交え行っています。そのような場面が訪れた時は、早期に相談を始め、本人・家族の気持ちに添えるよう話し合いを重ねています。	入居時に、本人・家族に「重度化対応に関する指針」を示して同意を得ています。重度化した場合には医師を交えて納得のいく最期を迎えられるよう話し合いを重ねています。現在は看取りを行っていませんが今後は行っていく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を行い、実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域に協力体制をして頂けるようお願いしています。昼夜想定避難訓練を実施しています。	年1回自主訓練(火災通報・避難)を実施していますが、消防署の立会はありません。スプリンクラー、消火器等必要な防火設備は整っています。緊急対応表、連絡網も掲示し、3日分の飲・食料品、移動式発電機を準備しています。	利用者の平均年齢86歳なので、消防署、地域住民(町内会)の連携により、実際に即した災害避難訓練を実施すること、および備蓄の内容及び数量の見直しを行うことが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の入居者の人格を尊重し、プライバシーを大切にされた対応をしています。具体的には、身体拘束の研修や全体会議等で話し合いをしています。	個人ファイルなどの個人情報は書棚に保管管理しています。利用者の羞恥心への対応や尊厳を守る支援については職員研修や会議で周知徹底に努めています。利用者と同じ目線に立ち、落ち着いた対応ができるよう心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活に於いて自己決定を重んじ、選択肢を入居者が持つように配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースで、希望に添い無理のない支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る洋服は、職員と一緒に自分で選んで頂いています。わかりやすいように整理してありますので、選びやすくしてあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る家事は、職員と一緒にしています。味付けも味見して頂き入居者の好みの味つけにしています。片づけも出来る方はして頂いています。	利用者はテーブルやお盆を拭いたり、エプロンをたたむなど、できることを職員とともにしています。普段の食事をお弁当形式にしたり、イベントの時にはリクエストに応じて寿司がメニューに上るなど、食事を楽しむ工夫がされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量に関しては記録し1日のトータル把握をしています。栄養バランスは、管理栄養士が献立をたて、バランスのよい食事になっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず行っています。出来ないところは介助で行うようにしています。月2回訪問歯科が入って口腔内・歯の点検を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表でパターンをわかり、失禁やおむつ使用減らしトイレで気持ち良い排泄習慣ができるよう支援しています。	半数以上の方がトイレで排泄しています。排泄チェック表により個々のパターンを把握し、トイレ誘導や声かけをして排泄の自立に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	活動性や食事に配慮してスムーズに排便ができるよう個々に支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴ですが、入居者は楽しみにしてくれています。その人の希望もあり、個々に添った支援をしています。	入浴を拒否する人はおらず、みんなお風呂を楽しみにしています。週3回、20分くらいのペースで入浴していますが、利用者の意向や体調により柔軟に対応しています。また入浴剤やゆず湯で入浴を更に楽しめる工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動性を持たせ、夜間はリラックスして睡眠できるよう心掛けています。良い睡眠がとれるように、室温・寝具等にも配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の病状を捉え、薬の目的・副作用・用法・用量について理解し、服薬支援をしています。服薬変更時は症状確認を怠りません。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人・家族等より生活歴や好きな事の聴衆をして、楽しく1日を過ごせ、気分転換が出来るよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせて午前午後散歩に行っています。車で昔懐かしい場所に向いたり、季節の花を見に行ったりと生活の張りを持たせるように支援しています。	天気の良い日には40分～1時間ゆっくり時間をかけて近隣を散歩しています。途中の公園では体操をしたり休んで談笑しています。自立度の高い人が多いのでほとんど全員で出かけています。また月に1回はドライブで季節の花見などを楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で希望があれば家族と相談し、立替えて購入したり、家族が購入してきたりとしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ビデオ電話で通話したり、希望があれば手紙のやりとりを支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の花を飾ったり、リビングその他は適温で音量も耳触りにならない様に配慮している。居心地良く過ごせるようにしています。	殆どの利用者が過ごすリビング兼食堂は、広くゆったりとしており、広い厨房から居室など全体が見渡せ、調理の音や匂いで生活感があります。コロナ禍の中、利用者は行事や、ボール遊び、脳トレなど元気に過ごしています。床暖房、加湿器や空気清浄器などで利用者が居心地よく過ごせるように配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置に配慮し、気の合った者同志が思い思いに居場所ができ、穏やかに生活できるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自の部屋は、今まで自宅で使っていた馴染みの家具等を持ち込み、安心して休息できるように工夫しています。	居室は明るく広く、エアコン、ベッド、広めのクローゼットが備え付けなので、整理・整頓が行き届いています。利用者は馴染みの物を持ち込み、自宅に居るように居心地よく過ごしています。またお雛様が各部屋のドアに飾られていて、ホームの気遣いが感じられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルに自分の場所があり、食事も自立して頂き、テレビを観たり本・新聞を読んだり自立して生活出来ています。トイレ2ヶ所で行きなれ1人で移動でき、排泄も自立しています。安全に行えているか確認は常に行っています。		